兒雷也豪傑譚（じらいや ごうけつ ものがたり）

上の巻　四十三篇

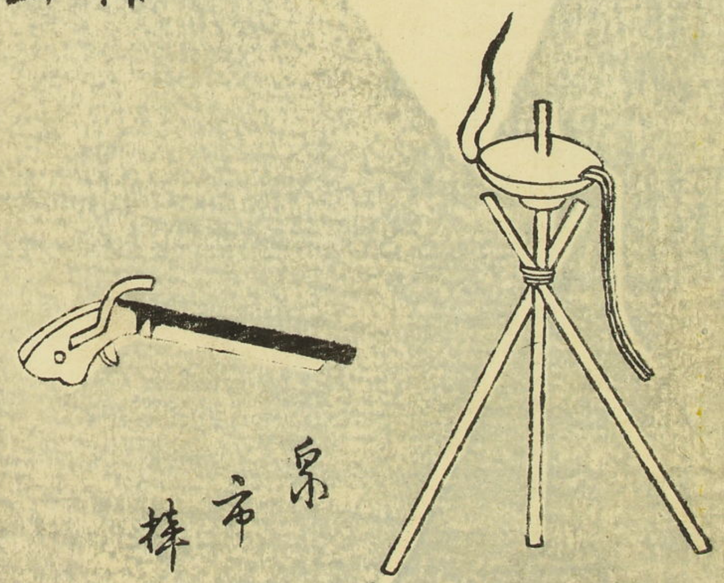
へ13
3878
85

門 へ13
號 3878
卷 85

兒雷也 豪傑譚

上卷

柳水亭作画



泉市棒

蛙の歌袋

憎むべき物を歌に憐むべき物を身方とせるハ世間の人情也依て此草紙ハ最悪の蛇を歌に風流の蛙を身方と成れる古笑を探て此ハ圖せる蛙の歌袋を得ら是少年の時野州を行脚せ一折懐品の蛟咬を治る方を記せり野及の地ハ蝮蛇さられば夫蛟蛇に咬まるゝハ急ハ柿の渋を塗ぬべし若乾柿の肉をきざみ醋ハ煮て塗ぬべ一又干屈菜枯梗の葉二品を等分ハ摺潰し胡椒の末を一撮入て傅べ一又急ハ烟管の催顔をうゝむけハ傷の如く掩覆せカを定て搭定て放べ暫もれば肉腫起て一頭の中一盃ハ出るゝ其所を小刀ハて断割悪血を絞出すべ又ハ中の屎の堰を熱湯に入再び煮て其中へ入て潰一熱を覚ゆるバ止べ

毒の淡らぎ」と何是ハもだ〳〵あるに至りて止べ一又馬歯莧を莖葉ともに搗て絞汁を三盃わど飲べ一凡蛇ハ咬まる人酒を熟醉せる程ど飲べ一水にて多足をつゝらべ一刀を一七酸ものを食ふべ

慶應戊辰
孟春發兒

柳水亭種清述

兒雷也花街通の圖

綱手探仇図

辰之助

車

柳水亭種清作
一壽齋國貞画

三の巻へ

一兒雷也豪傑譚　四拾弐篇

一二休草紙　拾五篇

一風俗淺間嶽　拾四篇

一黄金水大盡丸　拾七篇

書肆
地本問屋
芝神明前
和泉屋
市兵衛
銀座四丁目
同支店